

『アートフォーラム 〈こどもとアート〉の現場を考える』 実施報告書

1. 概要

ワークショップ名	キッズ！ファンタスティック ☆ミュージアム	〈こどもとアート〉の現場の つくりかた
対象	こども	おとな
日時	平成 27 年 8 月 26 日(水) 午前の部 10:30～12:30 午後の部 14:00～16:00	平成 27 年 8 月 29 日(土) 13:00～16:30
参加人数	午前 22 名 午後 2 名	27 名

場所：大阪府立江之子島文化芸術創造センター 4階ルーム1

主催：大阪新美術館建設準備室

共催：大阪府立江之子島文化芸術創造センター

協力(キッズ・ファンタスティック☆ミュージアム)：キッズプラザ大阪

助成：一般財団法人地域創造

講師：岡田可斗子さん(キッズプラザ大阪 ミュージアムエドゥケーター) 8月26日

トークゲスト：上田信行さん(同志社女子大学現代社会学部現代こども学科 特任教授、
ネオミュージアム館長) 8月29日

清水文美さん(ひとはく連携グループ run♪run♪pulaza (るんるんぷらざ)
主宰、こども☆ひかりプロジェクト代表) 8月29日

2. 内容

このアートフォーラムはこどもを対象としたワークショップとおとなを対象とした
トーク&ディスカッションの2部で構成されています。

また、こどもを対象としたワークショップでは、参加者は募集時に低学年と高学年で分けて
おり、午前の部は小学1年生から4年生、午後の部は小学3年生から中学生と、対象年齢
に合わせた内容のワークショップとなっています。

こども対象ワークショップ

①説明・自己紹介

参加したこども達を、あらかじめ4つのグループに分けて
おいて、1人のナビゲーターが1つのグループを担当しました。
講師の岡田さんからワークショップの流れ、内容などの説明
があり、その後グループ内で自己紹介をしました。



②対話型鑑賞

はじめに対話型鑑賞を行いました。まずは一言も話してはいけないルールの下で5分間、黙って作品を鑑賞しました。ナビゲーターが子ども達に歩きながらみたり、座ってみたらどうだろう？寝転んでみたら？右や左から見てみたら作品はどう見えるだろう？などと声をかけて子ども達をいろいろな場所へと動かしました。



その後、ナビゲーターが子ども達に問いかけます。子ども達からいろいろな意見や気持ちを引き出すように、何に見えた？どんな気持ちになった？など問いかけをしました。子ども達からは1つの作品に対して様々な意見が飛び交いました！

低学年



フラミンゴみたい！色が混ざって綺麗！
鳥の羽みたい！チューリップみたい！



チョウチョに見える！魚がいる！

高学年

ライオンの顔みたいに見える！
流れているように見える！
鳥の羽みたいだ！
下に吸い込まれているみたい！
何かが爆発したように見える！



③創作

低学年

次に創作活動をしました。針金を使って、毛糸で服を作り、ガムテープで髪の毛や顔を作りました。また、ふきだしを作り、こんなふうに見たい！こんなふうに見てもらいたい！などの思いをふきだしに書きました。

作品の写真をパネルに貼ったものを用意して作品の鑑賞を行った空間を再現し、そこへ完成した人形を並べました。針金が硬くて1人では難しい工程もありましたが、ナビゲーターのサポートもあり、様々な表情やポーズをした人形が出来上がりました！



高学年

一方で、高学年は抽象画の作品づくりを行いました。赤や緑、黄色など様々な色を使用しました。絵の具を流し込んだり、色を混ぜてみたり、水で薄めたり、ヘラや筆を使ったりして、自分オリジナルの作品を制作しました。



④発表・作品の解説



創作活動で作った作品の発表をグループごとに行いました。発表では他のグループの友達が思ったことや感じたこと、伝えたいことなどを、真剣なまなざしで聞いている所がとても印象に残りました。最後に、学芸員から作品の解説と全体の作品の鑑賞を行いました。学芸員の詳しい解説があることで、より作品への関心が深まりました。

おとな対象トーク&ディスカッション

26日に実施したこども対象ワークショップの成果報告を行いました。講師の岡田さんやナビゲーターから、こども達が作品を見て感じたことや思ったことなどの感情を引き出すために行った問いかけや、どのようにこども達を動かす声かけを行ったか、などのお話を聞きました。



ゲストトークでは清水文美さん、上田信行さんをゲストに迎え「〈こどもとアート〉の現場のつくりかた」について参加者全員で議論を行いました。

はじめに清水文美さんには、東日本大震災で被災した、またはその影響を受けた、たくさん子どもたちのために行う活動「こども☆ひかりプロジェクト」のことやミュージアムの魅力と可能性についてお話ししていただきました。



その後、上田先生の提案で対話型鑑賞を行いました！グループに分かれて、ナビゲーターがグループに1人つきました。こども達とはまた違った視点から作品に対する意見を聞くことができました！



対話型鑑賞を行った後、キューブを使ったワークショップを行いました。このキューブは **nucube**(ヌーキューブ) といって、学習環境デザイン分野で活躍されている上田信行先生が開発したものです。nucube は 5cm の小さな箱で、箱の 6 面に自分の思ったことを表現することで、コミュニケーションがもっと楽しくなるツールとなっています。また、会話が弾むだけでなく、後で自分が話したことを省察することもできます。

この nucube の 1 面には、対話型鑑賞でみた作品のタイトルを自分なりに付けたものを書きました。残りの 5 面には作品の思ったことを書きました。

その後、参加者は 2 列に向かい合って立ち、向かい合わせになった人と自分が鑑賞した作品について、キューブを見せ合いながら意見交換をしました！



ワークショップを行った後、上田信行さんには、創造力を育む空間づくりや、楽しいことの中にこそ学びがあるということについてお話ししていただきました。



最後に、ゲストのお話やワークショップを刺激にして、参加者同士でディスカッションを行いました。リラックスして会話できるように、参加者の方にはおすすめのお菓子を持参していただき、お菓子を食べながらゲストの方も交えて会話を楽しみました。



自分の考えや思ったことを話し合ったり、自分では気づけなかった発見に気づけることが楽しいと言っていたことがとても印象的でした。

また、コミュニケーション力や想像力、自分で考える力を身に付けることができ、美術作品を鑑賞する楽しさを感じることができると感じました。

報告者：藤森 光（大阪新美術館建設準備室 外部研修生）